

地域を巻き込む 男5人によるクロモジストーリー

初代クロモジチーム代表 白川 凜太郎



はじめに

初代クロモジチームリーダーの白川凜太郎です。現在は地元の児童館・こども園で働きながらクロモジ関係の活動をしており、私の住む久万高原町は平均標高800mに位置しており、愛媛県の中で最も土地面積が広く、人口約8000人・高齢化率約50%・森林率約90%とこれだけの情報でもこの地域がどんな状況か分かっていただけたと思います。そんな久万高原町を活気づけようと高校時代の授業をきっかけにスタートしたクロモジチーム男5人の活動についてお話できたらと思います。どうぞよろしく願います。

初代クロモジチーム結成

初代クロモジチームは久万高原町で育ち地元の上浮穴高校森林環境科に進学した5人から結成されました。森林環境科とは、林業・農業・木材加工など森林環境に関わる様々な分野を学ぶことができる学科です。3年生になると課題研究というテーマを1つ選び1年を通してそれについて研究していくという授業があります。今までの先輩方から引き継ぐテーマがあれば、自分たちの代から花を咲かすテーマもあります。クラスの大半がテーマで

どのグループに分かれていく中、何も決められず行き場を失っていたのが私たちです。そんな私たちに当時の担当教員である橋本先生がクロモジ活動をやってみないかと声をかけてくれました。そうしてクロモジが何なのか分かっていない余り者たちで結成されたのが初代クロモジチームなのです。今思えば、地域活性化に興味があるわけでもなく、クロモジの事が大好きというわけでもなく、とにかく強い志を持っていた5人ではありませんでした。しかし、そんな5人が活動を進めていく中でクロモジの可能性・久万高原町の現状・久万高原町とクロモジの関係を知り、何気なく始めたはずの5人が気付けば休み時間まで使って熱心に活動するようになっていったのです。



人と町を香りで繋ぐ物語

久万高原町に自生しているクロモジの現状

クロモジ活動を進めていく中でクロモジの

有用性に気付かされた私たちは久万高原町におけるクロモジの現状を知ることになります。冒頭にもお伝えしたとおり、久万高原町の森林率は約90%で、そのうちの約70%は人工林で構成されています。また、伐採して主に利用されているのはスギやヒノキでクロモジは楊枝や団子の串程度にしか利用されていなかったどころか、大半は単に邪魔者扱いされていたのです。そのため多くのクロモジが山に切り捨てられていたり、放置されたりとクロモジの事を深く知ったからこそ悲しい現状でした。そうして何も知らなかった私たちがクロモジを知り、地域を知り、現状を知り、何か行動したいと心を熱くさせられ、クロモジ活動を行う以前には芽生えたこともなかった感情がこのとき初めて生まれたのです。私たち5人の成長とともに課題研究というただの授業ではなく、少しでも久万高原町のためにとメンバー一人一人のクロモジ活動への意識が変わっていったのです。

クロモジ活動

私たちはクロモジの精油に着目して商品開発できないかと試行錯誤を重ね活動していました。

実際に山に入りクロモジを採取するところ

から始まり、採取したもの、を学校に持ち帰り水蒸気蒸留装置を使って精油にしています。研究段階ではスギ・ヒノキ・マツなどクロモジ以外の精油も採取して幹の部分・葉の部分・混合などそれぞれ香りの比較を行いました。大量の材から絞りだされた精油は少量で改めて精油の価値を実感しました。(材5kgから精油10ml程度)また、実際にクロモジの精油を抽出し始めてから蒸留装置が置いてある教室はもちろんのこと、林業教棟中のクロモジの香りに包まれ一時期は入ってくる他の生徒・先生から「すごいクロモジの匂いがある」とよくつぶやかれたものです。どんな活動の幅が広がっていく中でクロモジ体験ツアーという採取から精油抽出・製品加工まで



家族でほんわかクロモジトリ



第一回クロモジ体験ツアー

1日を通して体験的にクロモジを感じられることができる企画を行いました。地元の方からそうでない方まで来てくださり活動した成果を初めて周りに発信していく機会で、私たちクロモジメンバー5人も手ごたえを感じた企画になりました。また、その際に「男の子5人でアロマの活動をしているなんて面白いね」と言われ、確かにアロマオイルというとな女性のイメージが強く、男5人で活動していることはどこか不思議で面白いような恥ずかしいようなそんな気がしていました。クロモジ体験ツアーは私たちの代では2回行い、後輩に引き継がれた後も第3回というように行われていく定番の企画となりました。その後、卒業の時期を迎え高校時代の初代クロモジチームの活動は幕を閉じ、クロモジ活動は無事後輩たちへと引



全国ハーブサミットin淡路島



香りの保育が生み出すとびっきりの笑顔

き継がれていきました。

今後

それぞれの道に進んだ私たち初代クロモジメンバーでしたが、社会人・大学生になってからも森のハーバルライフ in 久万高原や全国ハーブサミット in 淡路島、養命酒とのタイアップによるクロモジのど飴モニター調査など、クロモジ関係で声が掛かると快く引き受けて活動しています。今までのクロモジ活動を通して出会った人・経験したことがなかったような活動・周りからの肯定的な言葉がけなど高校時代パツとしなかった私たちに自信をつけ、今まで成長させてくれたクロモジと支えてくれた方々に感謝しています。だからこそ私は恩返しの意味も含め、声が掛ければメンバーを集めできる限り活動していきたいです。また、勤めている児童館・子ども園では高校時代のつながり経験を活かしながら「香りの保育」(香育)を行っており、地元で育っていく子どもたちに自然の美しさ尊さを伝えていき、その子たちが大人になった時に自然豊かな久万高原町で子育てしたいと思えるような街づくりに貢献していきたいです。



いっぴくいかろクロモジ茶